

# 聖愛

十一月号

原町 聖愛 保育園  
二〇一〇年十一月一日発行



爽りの秋、親子遠足や森遊びでの体験が活かされて、子どもたちの探索意欲もさらに湧いています。年少クラスの子どもたちも本陣山に出掛け、関心の惹かれるものに見て触れて喜んでいきます。  
ご家庭でも、自然の中に出掛け、探索や発見を楽しみましょう。

## 「イエス様の女弟子たち」(ルカ福音書 8章1〜3節)

聖書は男社会の中で書かれています。女性信者についてもたくさん書き残されています。特に、ルカ福音書は医者であるルカが、女性を一人の人間としてとらえ、当時あまり表に出ない女性を内面から見つめ書いています。例えば、イエス様の誕生物語は、マタイ福音書が夫ヨセフの立場で書いているのに対し、ルカ福音書は妻マリヤの立場で書いています。

当時の社会状況からして、女性は男性に従属しているように見えますが、どうしてどうしてそのような状況下にあっても女性は立派にその存在を示しています。いま私たちが住む日本でも、地方によっても異なりますが実社会において女性が活躍しています。それは、男性と同等に活躍していると言うよりも、女性の持つやさしさとか、芯の強さ、細やかさ、気配り、面倒見のよさなどで力を発揮しているように思われます。

今日取り上げた聖書には、2000年前にマグダラのマリヤ、ヘロデ王の家令クザの妻ヨハナ、それにサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分の持ち物を出し合い旅するイエス様の一行に奉仕していたことが書いてあります。

このように、聖書の書かれた厳しい時代にあっても、自分の正しい生き方を求めてイエス様の一行を支えた自立した婦人たちがいました。わたしたちも、子育てに際して、どんな環境にあっても自立し正しく行動する自分の後姿をみせながら子育てをしたいですね。

(社会福祉法人ちいろば会 理事長・牧師 佐藤 健)

### 11月の保育目標

### 主 題 「ふかめる」

暗唱聖句 愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。

エフェソの信徒への手紙 3章17節

	保育目標	保育内容	保育者の配慮
てんし	0歳児 ・興味や関心を持ったことを、保育者と一緒に楽しむ。	・はがす、ちぎるなど指先の遊び ・なぐり描き ・築山遊び ・砂遊び ・散歩	・子どもの興味や関心を把握し、自分からやろうとする気持ちを大切にしながら、十分に遊びを楽しめるようにする。 ・興味や関心が広がるように、遊びや生活の中で保育者と一緒に経験出来るように誘う。 ・着替えなど、保育者と一緒にやりながら方法を知らせ、自分でやってみる経験が出来るようにする。
つぼみ	1歳児 ・戸外遊び 散歩を楽しみ探索しながら、友だちや保育者とじっくり遊ぶ	・かくれんぼ ・散歩 ・ジャングリズム 太鼓橋 ・木の実製作	・様々なものに興味を持ち、拾ったり見つたりする時間を大切に、見つた時は一緒に喜び、また拾った物は 製作用に活かしていく。 ・歩く、走る、握る、登るといった全身を使って遊ぶ楽しさがわかるよう、様々な遊びを提供し、一緒に遊ぶ。
はな	2歳児 ・周りのことや物に関心を持ち、見つたり気付いたことを言葉にして伝える。	・自然探索 (木の実 落ち葉拾い) ・自然物を使って顔作り ・新聞紙遊び ・ルール遊び	・子どもの気付きや発見を共感出来るよう、一人ひとりの子どもの姿を見逃すことなく、観察する。また、発見の面白さを感じられるよう、きっかり作りをする。 ・自然物のあたたかさ、心地よさを感じられるよう、保育室の空間作りを努める。 ・友だちや保育者とごっこ遊びをする中で、言葉のやりとりを楽しめるように丁寧な言葉かけを心掛ける。
ファミリークラス	3歳児のみ ・友だちに気持ちを伝え、一緒に遊ぶ中で関わりを深める。	<室内遊び> ・木の実や枝を使って製作※1 ・マフラーづくり (ほし) ・森の物語製作 ※3 ・オブジェ作り (ほし・つき) ※4	・戸外で拾ってきた自然物を使って、作りたい物を一人ひとりが思い思いに製作を楽しめるようにし、材料や道具を整える。 ※1 ・友だちがやっているのを見て、自分もやってみたいという気持ちを引き出し、試せる場を作る。 ※5
	4歳児ほし ・友だちと協力して、遊びを楽しみ、深めていく。		・森遊びや遠足の体験を大切にしながら、秋の自然の美しさや不思議さに気付かせるよう、色、形の面白さ、組み合わせの工夫ができるよう配慮する。 ※4 ・つき組と一緒に遊ぶことで刺激を受け、自分たちもどうしたら出来るようになるのかを考え、相談し合って進められるよう思いを引き出していく。 ※6
	5歳児つき ・意見を出し合い、相談し合って、遊びや友だち関係を深める。	<戸外遊び> ・なわとび ※5 ・ドッチボール ※6 ・跳ぶ、走る	・秋の自然や爽りに関心を向け、その中で得た経験をもとに、想像を広げながら、友だちと製作を楽しめるように働きかける。 ※3 ・遊びをくり返すことで、体の動かし方のコツをつかみ、うまくいく方法を考えながら行い、面白さやもう一度やりたいという意欲を引き出せるようにする。 ※5



<11月の予定>

日(曜日)	園の予定	職員の予定
1(月)	食育体験 こんにゃく作り	
2(火)	芋煮会 保護者役員会	
3(水)	文化の日(休園)	
4(木)	ポップコーン 久米本先生来園	職員会議
5(金)	合同礼拝	聖書研究 めぐみの会
6(土)		日本健康福祉政策学会 (~7日)
8(月)	大根・さつまいも堀り(つき)	
9(火)	感謝訪問	構造化会議
10(水)	避難訓練 子育てサークル	ケース会議
11(木)	小人さんの音楽会 巡回相談事業(発達支援)	
12(金)	食育体験 大豆収穫 せいあいまつり保護者話し合い (19:00~)	聖書研究 タラントの会
13(土)		キリスト教保育連盟研修
14(日)		発達支援室研修会
15(月)	しゃりん梅訪問	
16(火)		園内研修
17(水)	食育体験 豆腐作り (ファミリークラス)	マネージャー会議
18(木)		給食部会
19(金)	収穫感謝祭	クリスマス勉強会
21(日)		収穫感謝礼拝 療育補助セミナー
22(月)	お弁当の日	
23(火)	勤労感謝の日(休園)	
24(水)	子育てサークル	給食会議
25(木)	ポップコーン	
27(土)	せいあいまつり	
28(日)	アドヴェント	
29(月)	お母さん勉強会	
30(火)	長寿荘訪問(つき・ほし) 久米本先生来園	



<子どもを伸ばす 関わりことば / 湯汲英史先生の講演会より>

言語聴覚士・精神保健福祉士の立場から見るお話で、私たち大人が子どもへかけることばが、これからの子どもたちの社会性を育てる大切な役割を果たしていることを学びました。いくつか紹介します。

○関わりことばとは・・・

自己判断が出来るように人間の基礎を作り、群れ(社会)の中で生きていくための知恵を与える「ことば」。

- ①「大きくなったね」(うまいね、えらいね、すごい!)  
2歳くらいから子どもは自立したいという自然の欲求が出ます。<できた→「大きくなったね」と認められる→意欲が生まれる→新しいことに挑戦する>といった良い循環につながります。
- ②「大事・大切」(一つしかない、こわさない)  
大事・大切と思う気持ちは、人や物とじっくりと深く関わることにつながり、人生を豊かにします。「大事・大切」を大人から学ぶことにより、人に対して気遣いも出来るようになります。
- ③「いっしょに」(真似して、同じに動かして)  
このことばを理解することにより、「誰かと何かを一緒に行う」ことがスムーズになります。「いっしょに」を伝えるのに効果的なのは、一緒に歩くこと。人のテンポに合わせる事ができ、人に対しての意識も高まります。
- ④「はんぶんこ」(分ける、いっしょに、おなじ)  
群れを作り暮らす人間にとって「あげるーもらう」関係は避けられません。「はんぶんこ」を理解することにより、相手をはっきりと意識し、助け合うことについて学ぶようになります。

子どもは、ことばをたくさん吸収する乳幼児期に、同時に人や社会との関わり方を学んでいます。まわりの大人が行為と結びつけながら、関わりことばを大切に使うことで心が育まれますので、保育園では年齢に応じた、言葉の獲得に配慮しています。  
ご家庭でも日常生活のことばを大切に使うことを心がけましょう。

<感謝訪問> 9日(火) ファミリークラス

日ごろお世話になっている方々へ、御礼と感謝の気持ちをあらわします。プレゼントとして、木の枝を使ったメモスタンドをお届けします。

○行き先○

- ・なみ組 原町自動車教習所、しゃりん梅
- ・ほし組 原町第二小学校、東北電力、板倉歯科医院
- ・つき組 平田小児科医院、消防署
- ・代表者数名 森林管理事務所、岡征四郎さん宅



<せいあいまつり> 27日(土) 雨天決行/保育園・保護者会共催  
フード・雑貨バザー、自然物を使った遊びのコーナーなど、今年も様々なものを用意します。ご家族みなさんや、ご近所の方、お友だちなどをお誘いし、お出で下さい。

○事前の各クラス保護者話し合いを行います。

- ・12日(金) 19:00~ 各クラス保育室 対象:全保護者  
※都合で出席できない方は、クラス担任にお知らせ下さい。

<アドヴェントについて> 28日~

「アドヴェント」(待降節)とは、11月30日に最も近い日曜日から始まり、12月25日の『クリスマス』までの4週間のことを言い、イエス様のご降誕の日を迎える心の準備をする期間です。4本のろうそくが立てられた「アドヴェントクランツ」は、日曜日の礼拝ごとに一本ずつ灯火を増やして、4本のろうそくにあかりが灯ると、『クリスマス』です。

保育園でも、各クラスにリース、クランツを子どもたちと準備をして飾り、クリスマスを楽しみにします。

<お知らせ>

- 布団を持ち帰りますので、日光消毒や洗濯をお願いします。  
☆今月は、12日(金)、26日(金)です。
- 全国的に、風邪やインフルエンザなどが流行する時期です。各自予防のためにうがい・手洗いは徹底して行いましょう。
- 今月の保育料の引き落とし日は、11月30日(火)です。残高不足で引き落とし不可能なよう、ご確認ください。

<収穫感謝祭> 19日(金) 9:20~ 全園児

野菜や果物を持ち寄り、日ごろ神様が私たちに与えて下さる豊かな恵みに感謝し、礼拝を捧げます。

収穫と恵みの喜びを、ご近所の方々とも分かち合う予定です。

当日の朝、野菜や果物を一品持たせて下さるようお願いいたします。

○収穫感謝祭の由来○

17世紀初め、イギリスで迫害を受けたピューリタン(清教徒)の人々はオランダに逃れ、そして信仰の自由を求めてアメリカ大陸に移ろうとしました。1620年9月16日メイフラワー号に乗って大西洋を渡り、3ヶ月かかりマサチューセッツ州プリマスに上陸しますが、厳寒と飢えのため乗員の半分以上が死にました。

春になり、近くに住むインディアンは農耕や狩猟の仕方を教えてくれ、秋には十分な食料を得ることが出来たので、彼らはインディアンを招いて感謝の礼拝を捧げ、食事を共にしました。

1863年、リンカーン大統領はこの事を記念して、11月第四木曜日を国の祝日としたのが始まりです。

<大根・さつまいも堀り> 8日(月) つき組

「みどり」と花の大地学園(高見町農園)の方々が、丹精込めて育てて下さった大根とさつまいもを収穫します。感謝して。

- ・準備物:長靴、スモックまたは汚れても良い服。
- ・8:30までに登園。(時間厳守)
- ・天候により、変更になることもあります。



<食育体験 大豆収穫> 12日(金) ほし・つき組

「あぐりファーム未来」(小高区大井)にて、大豆の収穫体験をします。日頃、食べている食材がどのように育ち、収穫されるのかを体験の中で学び、食に対する関心をより高められるようにします。

- ・準備物:長靴、スモックまたは汚れても良い服。
- ・8:30までに登園。
- ・雨天の場合は16日(火)に変更。

